

《担当者名》 教授 / 齋藤 隆史 t-saito@ 教授 / 伊藤 修一 shu@
 准教授 / 松田 康裕 ymatsuda@ 講師 / 泉川 昌宣 s-izumi@

【概要】

総論では、齶蝕をはじめとする歯の硬組織疾患に関する基礎的事項とその予防法および検査・診断法、さらに各種修復法に共通な原理と技術について理解し、各論では、各種修復材料に適した修復の理論及び術式を学習する。

【学修目標】

- う蝕の症状と診断を説明する。
- 歯の検査法を説明する。
- う蝕の予防と治療の方法を説明する。
- tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)の原因、症状、診断および処置を説明する。
- MI (Minimal Intervention)に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明する。
- 象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明する。
- 生活歯の変色の原因、種類および処置を説明する。
- う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明する。
- 修復材料と修復法の適応を説明する。
- 修復に必要な前処置の目的と意義を説明する。
- 歯髄保護の種類と方法を述べ、その重要性を説明する。
- 窩洞形成の意義と方法を説明する。
- 仮封の意義、種類および特徴を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	保存修復学概説 1. 保存修復学の概念と目的 2. 保存修復学の歴史 3. 歯・周囲組織の構造と口腔の機能 4. 硬組織疾患、歯の発育異常及び硬組織関連疾患 5. 保存修復の適応症と禁忌症 6. 保存修復の種類 7. 修復材料の一般的性質 8. 修復材料の選択基準 9. 修復の概要 10. う蝕の病因と病態	保存修復学の歴史と目的を理解する。 エナメル質、象牙質、セメント質の正常構造と機能を理解し、硬組織疾患の原因と種類、特に、う蝕の病理、診断、処置を理解する。 保存修復の適応症、修復材料の所要性質、各種修復法ないし材料の特性を理解する。 「保存修復学」P.1-P.37 E-3-3)-(1)- 、E-3-3)-(2)-	齋藤 隆史
3) 4	患者の診かた	診療設備、診療姿勢、検査・診断、検査法、検査に必要な基礎知識を理解する。 「保存修復学」P.39-P.64 E-3-3)-(1)-	齋藤 隆史
5) 6	患者の治しかた	治療計画を理解する。 う蝕の処置法を理解する。 硬組織の切削法を理解する。 「保存修復学」P.65-109 E-3-3)-(1)-	齋藤 隆史
7) 8	う蝕歯の観察	抜去天然歯を用いてう蝕を観察する事により、う蝕の肉眼的識別、組織的構造について確認する。 「保存修復学」P.65-78 E-3-3)-(1)-	泉川 昌宣
9) 10	う蝕歯の観察 (プレゼンテーション)	う蝕歯の観察で得られた知見をまとめ、プレゼンテーションを行う。 E-3-3)-(1)-	泉川 昌宣

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11) 12	窩洞形成法 1. 窩洞 2. 窩洞の条件 A. 窩洞外形 B. 修復物の保持と窩洞の保持形態 C. 歯質の強さと窩洞の抵抗形態 D. 便宜形態 E. エナメル質の分離性と窩縁形態 F. 窩洞の清掃	窩洞の意義、名称、諸要件について理解する。 窩洞外形とそれを規正する諸条件、特に、不潔域について理解する。 修復物を窩洞内に長く保持する原理と方法を理解する。 修復物ないし修復した歯に耐久性をもたせるための窩洞の抵抗形態を理解する。 窩洞形成及び修復操作の便宜のために要求される便宜形態を理解する。 窩洞の辺縁部は脆弱で方向性がある。そこで、エナメル質の分離性を学んだ後、窩縁に与えるべき形態を理解する。 「保存修復学」P.110-P.122 E-3-3)-(1)-	泉川 昌宣
13) 14	修復時の留意点 1. 象牙質・歯髄複合体の保護 2. 修復治療の前準備・補助法 3. 修復物の具備すべき形状と面の性質	修復は生きた組織の創面に対する治療行為であることを認識し、歯髄の保護法を理解する。 「保存修復学」P.122-P.140 修復時の前準備について理解する。 修復物の形状をその表面性状について理解する。 「保存修復学」P.125-P.137 E-3-3)-(1)-	松田 康裕
15) 16	コンポジットレジン修復 (1) 1. コンポジットレジンの特徴 2. コンポジットレジンの組成・種類 3. レジン接着システム 4. 光照射器 5. その他の周辺器材 3. 光重合型コンポジットレジン修復の特徴	コンポジットレジン組成・種類、及びコンポジットレジン修復の特徴を理解する。 コンポジットレジン接着システム、光照射器、その他の周辺器材を理解する。 「保存修復学」P.141-P.170 E-3-3)-(1)-	伊藤 修一
17) 18	中間のまとめ	1～16回までの講義で学んだ内容について確認を行う。	泉川 昌宣
19) 20	コンポジットレジン修復 (2) 1. 光重合型コンポジットレジン修復の臨床的特徴 2. 光重合型コンポジットレジン修復の適応症 3. コンポジットレジン修復窩洞の一般的特徴 4. 臨床的操作法	コンポジットレジン修復の臨床的特徴、適応症、窩洞の特徴、臨床術式を理解する。 「保存修復学」P.141-P.170 E-3-3)-(1)-	伊藤 修一
21) 22	グラスアイオノマーセメント修復	グラスアイオノマーセメントの特徴、理工学的性質、窩洞そして修復法を理解する。 「保存修復学」P.170-P.177 E-3-3)-(1)-	松田 康裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

前期講義の評価は中間試験 40%、定期試験 40%、小テスト 20%

前期評価は、前期講義（60%）、前期実習（40%）

・〔判定法〕前期評価（50%）、後期評価（50%）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

「保存修復学」千田彰 宮崎真至 林美加子 向井義晴 齋藤隆史 編集 医歯薬出版

「保存修復学21」田上順次 奈良陽一郎 山本一世 齋藤隆史 監修 永末書店

「保存修復クリニカルガイド」千田 彰 寺下 正道 田上 順次 奈良 陽一郎 宮崎 真至 片山 直 編集 医歯薬出版

【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読んでおく。(30分)

講義の最初に、前回の講義内容に係る小テストを実施するので、復習をしておく。(30分)

・講義の最後にも小テストを行う。

【ディプロマ・ポリシーと該当授業科目との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得するために、保存修復学を学修する（専門的実践能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身に付けている（自己研鑽力）。

【実務経験】

齋藤 隆史（歯科医師）、伊藤 修一（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

学理に則った教育内容と実務経験を活かすことで、教育成果が期待できる内容となっている。